

## 記事内容

- ☆第22回参议院選挙関連
- ☆第22回参议院選挙結果
- ☆埼玉大学寄付講座
- ☆平和行動in沖縄
- ☆青年委員会「富士山清掃」/6/29韓国視察団
- ☆男女平等参画推進担当者会議&女性のためのSTEP UPセミナー開催/もうすぐ選挙/8月行動予定
- ☆あけぼのビル

## 第22回参议院議員選挙

# 民主党惜敗 ねじれ国会が現実!

埼玉選挙区 連合埼玉推薦「島田ちやこ」氏、惜敗  
比例代表選挙 連合推薦組織内候補10名当選

7月11日(日)に投開票が行われた第22回参议院選挙において、埼玉選挙区で連合埼玉の推薦する「島田ちやこ」氏は、一歩及ばずに惜敗した。

比例代表選挙では、11名の組織内候補を擁立し、組織の総力をあげて闘い抜いた。その結果10名の当選を勝ち取った。しかしながら民主党全体の比例得票数は大きく低下し、11名の候補者の得票数も前回の182万票から159万票へと大幅に減少させている。民主党全体の個人名での投票率は21.8%であり、自民党の24.3%、公明党53.5%と比較しても個人名の浸透率の低さがわかる。連合組合員の総数からみると組織内候補への個人名での投票は2割程度であり、不十分な結果となったことは否めない。



民主党は改選議席の54を大きく下回る44議席にとどまり、非改選議席と合わせても過半数割れをする結果となった。

このような選挙結果に終わったことは、連合埼玉としても大変残念である。今後連合埼玉としての第22回参议院選挙について総括を行う。

今回の厳しい選挙情勢の中で、構成組織の役職員、組合員とその家族すべての関係者のみなさまには、ポスター貼りに始まり駅頭活動や、ポスティングなど多大で突発的な行動への支援をいただき、お礼申し上げます。



# 第22回参議院選挙結果

## 埼玉選挙区選挙結果

候補者氏名	年齢	政党	新旧	当落	得票数
<b>島田 智哉子</b>	47	民主	現	落	544,381
大野 元裕	46	民主	新	当	557,398
関口 昌一	57	自民	現	当	655,028
西田 実仁	47	公明	現	当	594,678
小林 司	39	みんな	新	落	416,663
伊藤 岳	50	共産	新	落	207,957
中川 幸司	30	改革	新	落	84,897
日森 文尋	61	社民	新	落	71,185
長谷川 幸世	30	無	新	落	37,731
院田 浩利	43	幸福	新	落	9,536

## 比例代表組織内候補者選挙結果

候補者氏名	年齢	新旧	当落	得票数
柳沢 光美	62	現	当	159,325
江崎 孝	53	新	当	133,248
直嶋 正行	64	現	当	207,821
加藤 敏幸	61	現	当	120,987
津田 弥太郎	58	現	当	143,048
那谷屋 正義	52	現	当	139,006
石橋 通宏	45	新	当	150,113
難波 奨二	51	新	当	144,782
小林 正夫	63	現	当	207,227
板倉 一幸	59	新	落	70,521
田城 郁	50	新	当	113,468

## 埼玉大学 連合寄付講座「働くということと労働組合」

(社)教育文化協会主催の「連合寄付講座」が埼玉大学で4月14日～7月28日の間に開催された。(社)教育文化協会は、労働者教育及び教育文化活動の振興を通じて、広く勤労者の生涯にわたる学習、文化活動を支援するとともに社会構造の変化や時代の要請に応えられる人材の育成を図り、もって勤労者の生活及び文化教養の向上と自主的・民主的な労働運動の展開に寄与することを目的に1995年12月に連合が主体となって設立されました。



6/23 講義を受ける学生たち



連合埼玉事務局長 佐藤道明

6月23日には、政策実現活動の取り組み「地域での活動」を講義テーマとして講義を行った。講義では連合埼玉が政策実現活動に取り組む理由やナショナルセンター連合とローカルセンター連合埼玉の役割と運動について、連合埼玉新中期運動ビジョンや機関紙MONTHLY「あけぼのビル」を題材に話を進めた。なぜ、政策実現活動に取り組むのかについて、新中期運動ビジョンに掲げる、めざす社会像「働くことの意義、労働の尊厳が尊重される社会、働き暮らす人々が主人公で、その幸せが実感できる社会をめざす」を解説。また、県民から寄せられる連合埼玉への意見・要望等が増え、政策実現活動に役立っていることなど、政権交代以降の変化についてもふれた。次に「高校生卒業クライシス」「自殺対策」「国の出先機関の抜本的改革」などについて、「あけぼのビル」を資料に取り組みを説明した。「どんなに良い法律でも、どんなに良い制度でも、必要とするサービスを必要な人に伝え、そして利用してもらうことで制度や政策は生きてくる。皆さんが、希望を持てる安心な社会をつくりたいと願い行動したとき、その行動が社会を変える原動力となる。」とまとめた。



連合埼玉執行委員 横山 薫

5月26日に教育文化協会からの要請で、大学生に働く者の声をお伝えしてきました。

今回いただいたテーマは「ワーク・ライフ・バランス」です。

このテーマで私が学生に一番伝えたかったことは、制度や仕組みとしてのワーク・ライフ・バランスではなく、個人として「ワーク・

ライフ・バランス」を考えるときに大切なことは何かということです。それをわかりやすく説明するために、「子育て」と「介護」を題材にしました。

働きながら子どもを育てたり、親を介護することの大変さ、そして何よりも、その経験をしながら働き続けることの大切さも学生に知ってもらいたいと考えたからです。

そのために、30年前の育児休業法がない時代の子育ての状況について、出産後6週(後に8週)で職場復帰し、保育所も「0歳児保育の壁」で預けることもできなかった状況や、家庭保育室に預けても着替えもさせてもらえなかった悲しみなど、当時の働く母親の苦悩をリアルに説明し、育児休業法が施行されてからの子育てが1歳になるまで子どもを育てられる母としての喜び、また、いまだに解決されていない待機児童の問題、改正育児休業法の男性の育児休業取得に立ち足る固定観念の壁など、時には学生自身の親の姿を思い出してもらいながら、時として自分自身を等身大にして感じられるような「ワーク・ライフ・バランス」の考え方を提案してきました。

「ワーク・ライフ・バランス」は「仕事と生活の調和」と訳されがちですが、大切なのは、性別や世代を超えて他人を尊重することであり、他人を思いやる心だと確信しています。学生を含め、組合として、個人として、何が出来るかを考え行動する。そんな時代に早くなって欲しいと切望した寄付講座でもありました。



連合埼玉副会長・政策制度委員長 小野寺義成

社会的に強い批判を浴びせられた「雇止め」について、自動車総連では、非正規労働者(派遣・請負・直接雇用)も働く仲間であるとして、正規従業員としての登用拡大や、住居の退去期限猶予、グループ会社間での雇用協力など、緊急の取り組みを進めてきたこと。また一方で、地方連合会レベルでも行政に働きかけを行い、住居あっせんや就労支援などに取り組んできた。その中で、ホンダ埼玉製作所の非正規労働者への対応を事例に上げ、講義のコンテンツとして、ホンダ狭山の非正規雇用の実態(①期間従業員の労働条件②企業環境変化③雇用調整に至るまで④今後の取り組み)連合埼玉・埼玉労福協(①緊急支援②就職支援相談会③政策制度の重要性)をパワーポイントで説明を行った。特に学生に感じて欲しかったことは、報道で非難されている非正規労働者への労使の対応の真実を知ることである。働くということは雇用形態に拘らず、人との繋がりが大事であり、結果ばかりを見る時代の中で、日々の人間関係構築を大切にしている企業は労務問題に至らずに乗り切っている。以上を説明し多くの質問・意見を頂いて講義を終了し

# 2010 平和行動 in 沖縄

～平和への思いを、新たに。Yes, PEACE!～

連合平和行動in沖縄が6月23日～24日に、連合埼玉からは13名、連合全体では約1,260名の参加で開催された。

23日は那覇市民会館での「2010平和オキナワ集会」、24日は戦跡や米軍基地施設を廻るびーす・フィールドワークに参加した。夕方は県庁前広場で「米軍基地の整理・縮小と日米地位協定の抜本改正を求める集会」の後、国際通りを全員でデモ行進した。

沖縄は唯一の地上戦が行われ、20万人あまりの尊い命が奪われた。さらに、基地問題は解決されないまま… 戦後65年、傷跡は未だ癒えていない。

恒久平和を願い、広島・長崎・根室へとピースリレーが展開される。連合埼玉ではすべての平和行動に参加者を募り、職場・地域・家族にも広がるように平和行動を継続していく。



集合写真 那覇市民会館大ホール

## 日程

**1日目 (6/23) ■2010平和オキナワ集会**  
 と き 14:30～17:00  
 ところ 那覇市民会館  
 テーマ 第1部 平和な地球を求めて  
 ・写真で綴る沖縄の今昔(スライドショー)  
 ・平和への証言(お話し)  
 ・若者達の平和メッセージ(劇)  
 第2部 講演「日米安保条約改定50年、米軍基地の実態」  
 第3部 平和式典  
 ・「平和メッセージ」  
 ・連合広島へ「ピースリレー」「平和アピール」

**2日目 (6/24) ■びーす・フィールドワーク**  
 と き 9:00～19:30  
 ①基地コース<普天間基地、嘉手納基地>  
 ②米軍基地の整理・縮小を求める行動  
 集会(県庁前県民広場)  
 デモ(県庁前～国際通り～牧志公園)

## 参加者

- 小田切知孝 (JAM埼玉・新電元工業労組)
- 武田 寿 (電力総連・JCN Kanto Union)
- 小林美智也 (電力総連・JCN Kanto Union)
- 山田 正志 (埼交連・日本梱包運輸倉庫労組)
- 鈴木 昭二 (運輸労連埼玉県連)
- 田中 誠樹 (運輸労連・トナミ運輸労働組合)
- 小椋 旭 (運輸労連・太平洋陸送労働組合)
- 神永 隆 (川口地域協議会・NTT労組川口分会)
- 黒澤 秀之 (秩父地域協議会・昭和電工ユニオン)
- 塚本 幹男 (北埼玉地域協議会・岩崎電気労組)
- 矢口 樹 (連合埼玉・青年委員会)
- 田尻 富子 (連合埼玉・特別執行委員)
- 渡邊 史子 (連合埼玉・事務局職員)



平和行動in沖縄に参加させて頂き、これまで私が思っていた沖縄のイメージは、参加する前と後ではすっかり様変わりしています。  
 実際に自分の目で見た沖縄は戦争の傷跡が深く残り、65年経った今でも米軍の支配下にあることを実感しました。今回実感した戦争の恐ろしさを1人でも多くの人に伝え、平和の大切さを訴えていかなければならないと思います。  
 大変貴重な体験が出来た事を感謝しています。

小田切 知孝



平和オキナワ集会



嘉手納基地を見る道の駅「かでな」の屋上より



チビチリガマ



6月23日～24日にかけて、2010平和行動in沖縄に参加させて頂きました。初日は平和オキナワ集会に参加、2日目は、「びーすフィールドワーク」と題して、南部戦跡と米軍基地周辺の実態を見学後、連合全体による「米軍基地の整理・縮小を求める行動(デモ)」に参加し、沖縄戦の実相と悲しさ、平和の尊さを学び、米軍基地を整理・縮小することが如何に必要なことかを実感しました。

小林 美智也



沖縄には観光で幾度か行った事がありましたが、平和行動を目的で沖縄の地に足を運んだのは今回が初めての事です。これまででは、マスコミで普天間基地や辺野古など外面での情報は知ってはいました。しかしながら、沖縄の歴史や現状に直接、触れ、感じる事により、他人事では要られないという事を強く感じました。本当に沖縄に基地が必要なのか?日米地位協定の見直しも含め大きな問題を抱えている事を日本全体で認識する時だと思います。

武田 寿



山田 正志

平和行動in沖縄に始めて参加して、沖縄の歴史と現在を学ばせてもらいました。そこで沖縄は日本で唯一地上戦が行われた場所だと知りました。びーす・フィールドワークで戦場跡地を回り、米軍が沖縄で初めて上陸した場所や、チビチリガマ(避難壕)や嘉数高台公園で砲台の跡などまだまだ戦争の傷跡が残る中で生活を考えると、沖縄県民の基地問題に関してとても他人ごとではないと感じました。



鈴木 昭二

今回の平和行動in沖縄は、普天間基地移設問題で脚光を浴びていた関係から、沖縄の米軍基地問題について多くを学び、真剣に考えさせられました。日本国土面積のわずか0.6%に過ぎない沖縄県に、全国の米軍基地の74%が集中していることや米兵による事件・事故の発生が突出していること等、何れにしてもこの米軍基地が沖縄県民生活に大きな負担を強いていることは事実であり、私たちは、こうした実態を真摯に受け止め、沖縄の負担軽減にむけ連合方針を推進してまいりたいと思います。



米軍基地の整理・縮小と日米地位協定の抜本改定を求める行動 (県庁前県民広場)



田中 誠樹

今回、連合の平和行動in沖縄に初めて参加させて頂きましたが、平和オキナワ集会等を通じ沖縄戦の実態の一部を知る大変貴重な機会を得ることができました。

日本で唯一の地上戦が行われた、沖縄という地域の過去と現在の基地事情等を視察させて頂きましたが、住宅街に隣接する普天間基地の危険な状況には驚きました。一刻も早く基地移転を図り、この危険な状況をなくすことが急務と感じました。

機会があればもう一度沖縄を訪れてみたいと思います。



小椋 旭

今から65年前、日本で唯一の地上戦を経験した沖縄を訪問し、平和オキナワ集会に参加し、今の沖縄の現状を見学させていただき、改めて平和というもの大切さを実感いたしました。

また、未だに基地問題等の解決がされておらず、これからの沖縄の基地問題のあり方を他人事ではなく、我々が全員で考えていかなければならないと思います。

米軍基地の整理・縮小を求め、今後も積極的に平和運動を進めていきたいと思っています。



デモ行進(国際通り)

辺古野の有刺鉄線



神永 隆

始めて沖縄を訪れて、それまで、一本土住民での「沖縄観」しかなかった自分が、2日目の「びーす・フィールドワーク」で「基地コース」を回り嘉手納基地、辺野古、普天間基地と沖縄戦跡の一部を実際にこの目で見、そして説明等を聞く中から、これら沖縄が抱えている現実のほんの一部ではあろうけれど「百聞は一見に如かず」である。今回の行動において短時日であるが、現実の沖縄をこの目に焼き付けてこられたことに感謝している。



黒澤 秀之

沖縄のイメージは、「青い海、白い砂浜、常夏の楽園」というリゾートを思い浮かべる人が多いのではないかと思います。2010平和行動in沖縄に参加して沖縄に対する考え方は一変した。沖縄は、第二次世界大戦終結65年、沖縄返還後38年が経過し、冷戦時代が終った今でも、日米地位協定や米軍基地問題により揺れ動いている。沖縄の人の思いを日本国民全員が共有し行動を起す必要が、今まさにあるのだと感じられた。



塚本 幹男

基地の移転問題で取り上げられていた「普天間」「辺野古」等を見て来ました。広大な米軍基地が地元住民にもたらす騒音・事件・事故についても知る事ができたので、沖縄に基地は要らないと訴えている県民のみなさんの気持ちに、ほんの少しだけ近付けたような気がしました。沖縄だけが多くの米軍基地を負担することは見直すことが絶対に必要だと感じました。私が得た多くの驚きと学びをみなさんに伝えなければいけないと思っています。



矢口 樹

今回初めて「平和行動in沖縄」に参加させて頂きました。

現地で私が素直に感じたことは「戦争の悲劇を風化させてはいけない」「沖縄の人たちの負担を少しでも軽減してほしい」という思いであるとともに、多くの日本人に持ち続けてほしい気持ちです。「よい経験ができた」で終わることがないよう、今後も真剣に向き合っていくことが大切であり、今回参加した仲間とともに、そうした「輪」を広げていきたいと思っています。

## 山をキレイに！ 青年委員会「富士山不法投棄の現場」

6月19日(土) 青年委員会は今後の活動を考える一助として、日本電波工業労働組合の富士山清掃に4名で参加しました。受け入れをいただきました日本電波工業労働組合にお礼を申し上げるとともに、今後の参考にさせていただきます。

### 自動車総連 赤座 孝之

朝の集合地点に向う際には、「雨で中止かなあ」と思いながら移動していましたが、現地ではすっかり晴れて、雨具も必要ありませんでした。

清掃場所の青木ヶ原樹海は、樹木で日が遮られ、地面にはびっしりと苔が生えている中を、竹ペラでゴミを「発掘」するような作業になりました。

数十年前に遺棄されたと思われる、古いビン・カンなどが地中から大量に出てきました。

狭い空間にボランティアが並んで地面を掘り、ゴミを探す姿は一見、宝さがしにも見えるような光景でしたが、こんな自然の中に何十年も分解されないゴミが埋もれているのを見て、改めてゴミの不法投棄を行ってはいけないと実感しました。

最後にはトラック一杯のゴミを回収することが出来ましたが、このような場所がまた他にも有ると言うことなので、今後も機会がありましたら参加させて貰いたいと思いました。

今回は日本電波工業労組のイベントに便乗させて貰っての活動でしたので、青年委員会としても、今後このような活動を企画して行きたいと思います。



### 化学総連 新井 正

6月19日、朝方の雨はすっかり止み、晴れ間がみえ始めた頃、富士山ゴミ拾いボランティアツアーは出発しました。私は連合埼玉青年委員会の一員として参加しました。このツアーへ申し込むにあたり、私には二つの目的がありました。一つは、普段あまりボランティア活動をする事がなく、このゴミ拾いをきっかけに、ボランティアへの意識付けや今後の各種イベントへの積極的な参加を通じて、行動範囲を広げることにより、少しでも地域や社会に貢献できればとの思いがありました。二つ目は、他単組における活動を体験することで、自らの文体活動への取り組みの参考にしたいと考えました。

現地では、富士山クラブの方々へ、誘導して頂き、青木ヶ原樹海でのゴミ拾いを行いました。落ちていたゴミを拾い集めるというイメージがありましたが、実際は土中に埋まっているゴミ(ガラス・瓶・空き缶・その他)を一つずつ掘り起こし、回収するという貴重な経験をしました。

参加者と一体となり、目標(目的)に向けて取り組むことは、今の組合活動に通ずるところがあり、最も必要なことだと思います。私は今回の活動から、身をもって学び、再認識しました。

最後になりますが、この素晴らしい企画に誘って頂いた日本電波工業労働組の清水さんをはじめ、参加されました皆様には大変お世話になりました。有難うございました。

## 「埼玉県の政労使関係を高く評価」 韓国から大学教授が連合埼玉の取り組みを研究

6月29日、埼玉県の政労使関係の研究のために、イム・サンフン氏(キョンヒ大学教授)、全ミョンスク氏(韓国労働研究院国際室長)、通訳として呉学殊氏(労働政策研究・研修機構主任研究員)の3人が連合埼玉を訪れた。韓国では数年前から地域における政労使関係を強化するために取り組みが進められており、連合埼玉も毎年のように韓国からの研究者や視察団を受け入れている。イム・サンフン氏は約4年前にも連合埼玉を訪れており今回が2度目となる。イム・サンフン氏は埼玉の政労使関係を高く評価しており、その後の状況を研究したいとのことである。2時間ほどの懇談であったが多くの質疑が行われた。主な質問は次の通りである。



韓国視察団と

1. 県レベルにおいて政労使が対話する仕組み等、県レベルの政労使関係のありようについて
2. 最近5年間の県レベルの雇用・失業問題(若年、高齢者、非正規労働者、中小・零細企業等)の状況と対策について
3. 雇用・失業問題の解決に向けて政労使の対話・パートナーシップの有効性について
4. 県レベルの労使、労政、使政関係について

質問に対し、連合埼玉と埼玉県経営者協会で行い「彩の国・新産業雇用創出共同研究会」や「埼玉県地域労使就職支援機構」の取り組みを紹介。また、埼玉県や埼玉労働局の審議会等への委員派遣状況とその審議内容を報告した。あわせて政策制度要請活動や政治的対応についても紹介した。

## 男女平等参画推進担当者会議 & 女性のためのSTEP UPセミナー開催

### 「2010男女平等参画推進担当者会議」開催案内 (主催:連合埼玉男女平等参画推進委員会)

- 趣旨 男女共同参画社会の実現に向けた取り組みの現状と課題を把握し、労働組合における男女平等参画の重要性を再認識する。
- 日時 8月23日(月)13:30~17:00 ※受付13:00
- 場所 さいたま市「あけぼのビル501会議室」
- 内容 (1)講演:「男女平等参画社会の実現に向けて」  
講師:鹿嶋 敬 氏  
(実践女子大学 人間社会学部 人間社会学科教授)
- (2)連合埼玉「第3次男女平等参画推進行動計画」について
- (3)意見交換
- 規模 60名程度
- 申込 8月13日(金)締切り

※詳細等の問い合わせは、連合埼玉:小川・田尻迄 Tel:048-834-2300

### “女性のためのSTEP UPセミナー”開催案内 (主催:連合埼玉女性委員会)

- 趣旨 これまでの「女性のためのSTEP UPセミナー」(基礎編)の受講者を対象に、受講者のスキルアップと、連合埼玉「第3次男女平等参画推進行動計画」を主体的に実践する行動力を身につける。
- 日時 9月10日(金)~11(土)
- 場所 独立行政法人 国立女性教育会館  
埼玉県比企郡嵐山町菅谷728
- 内容 1日目 視察研修と講演  
2日目 講義と実習
- 規模 20名程度
- 申込 8月23日(月)締切り

※詳細等の問い合わせは、連合埼玉:小川・田尻迄 Tel:048-834-2300

## = もうすぐ選挙 =

東松山市長  
選挙

◆松坂 喜浩 (まつざか よしひろ)  
49才(無・新・連合埼玉推薦初)

告示日:2010年7月25日(日) 投票日:2010年8月1日(日)

寄居市長  
選挙

◆高橋 睦 (たかはし むつみ)  
51才(無・新・連合埼玉推薦初)

告示日:2010年7月27日(火) 投票日:2010年8月1日(日)

## 現在予定される8月の日程表です

8月	行事等	
	連合埼玉・事務局	地協・産別・労協・福祉事業団体・県・上部・外部団体
1日 日		①東松山市長選投・開票 ②寄居町長選投・開票 ③連合関東ブロック中央労金協力会議(~2日)
2日 月		埼玉県最低賃金審議会(13:30~・埼玉労働局)
3日 火	①第9回四役・執行委員会(ときわ会館) ②第3回男女平等参画推進委員会	
4日 水	平和行動in広島(~6日)	
5日 木		①労協第3回企画委員会(10:00~・ときわ会館) ②埼玉県最低賃金審議会(13:30~・埼玉労働局)
6日 金		
7日 土	平和行動in長崎(~9日)	埼玉県電力総連大会
8日 日	ネット21「親子夏休み体験尾瀬」(~9日)	
9日 月		
10日 火		北方領土返還要求運動埼玉県民会議平成22年度第1回役員会・総会(14:00~・埼玉教育会館303会議室)
11日 水		
12日 木		
13日 金		
14日 土		
15日 日		
16日 月		
17日 火		
18日 水		
19日 木		
20日 金		
21日 土	ネット21「親子夏休み体験ときがわ」	
22日 日		労協協理会(~23日)
23日 月	2010男女平等参画推進担当者会議(13:30~・あけぼの501会議室)	埼玉県最低賃金審議会(11:00~・埼玉労働局)
24日 火		
25日 水		第3回ライフサポートステーション運営会議(10:00~・連合埼玉会議室)
26日 木	シニア連合幹事会(15:00~・連合埼玉会議室)	産別最低賃金審議会合同(14:00~・埼玉労働局)
27日 金		
28日 土		20周年東部地協バスツアー
29日 日		
30日 月		全労済埼玉産別推進会議全労済セミナー1
31日 火		東部労協代表者会議(~1日)

# あけぼのビル

事務局長 佐藤 道明

## ◆第22回参議院選挙を終えて

第22回参議院選挙は7月11日に投票、即日開票された。民主党は現職閣僚が落選するなど選挙区28議席、比例区で16議席と大敗を喫し、特に勝敗を分ける1人区では民主党が公認候補を擁立した27選挙区において、8勝19敗と惨敗した。また同じ与党である国民新党は1議席も確保できず、与党は参議院の過半数を割り込む結果となった。一方で野党第一党である自民党は13議席増やし51議席を獲得、改選第一党となり昨年の総選挙後続いていた党勢の衰退に歯止めをかけたと言える。注目された第三極では、みんなの党が10議席を獲得する一方で、公明党・社民党・共産党などは議席を減らし、みんなの党以外の勢力が後退した選挙となった。選挙の結果、前回と同じく参議院で与野党勢力が逆転し、また、衆議院で与党が法案を再可決できない完全なねじれ国会となってしまった。

比例代表選挙では連合組織内候補11名を擁立し、組織の総力をあげて戦い抜いた。その結果、10名の当選を勝ち取ったものの、11名の候補者名得票数は、全国で前回の182万票から159万票へと大幅に減少、県内でも前回の6.4万票から6.3万票とはほぼ同数であるが、擁立候補が前回の7名に対し、11名であることを考慮すると課題を残した選挙となった。

埼玉選挙区では、連合埼玉が推薦した島田ちやこ候補が善戦したものの一歩及ばず、3位で当選した民主新人の大野候補との得票差は1.3万票と僅差での惜敗となった。前回の参院選における山根氏と行田氏の得票数の合計は141万票であり、1位当選の行田氏と3位当選の山根氏の得票差は8万票と絶妙なバランスと評された。今回の民主党候補2名の得票数の合計は110万票であり、さらに二人の得票差は1.3万票と、この上ない超絶妙なバランスとなった。

しかし、2位当選の公明党候補の得票数は59.4万票であり、110万票ではどんなに絶妙なバランスであっても2議席獲得はかなわない。なぜ、民主王国といわれる埼玉でこのような結果に終わってしまったのか。政権交代以降、与党として初めて迎えた参院選であったが、時の

政権に対する批判や無党派層という追い風にも助けられながら戦ってきた野党時代とは違い、与党慣れしていない民主党への国民の評価は厳しいものであった。

## ◆次につなげる選挙総括を

埼玉選挙区を戦うにあたって民主党県連は、15の総支部の内、現職に5総支部、新人に10総支部の重点総支部を配分した。配分されたエリアは、面積は現職が新人の約2倍にもかかわらず、有権者数は約2分の1と極めて不公平なものであった。各市町村における獲得票を見ると、概ね重点候補の票が各総支部とも上まわっており、県連が決めた重点区の活動は成功したといえるが、有権者数の違いは最後まで大きな壁となった。

また、政権運営を盤石なものとするために2名を擁立したにもかかわらず、公示前・後を通じての非重点区における活動の制限により、民主党は2名の候補を擁立しているということが有権者には届かなかつたのではないか。その結果、両候補とも重点総支部における候補に止まり、民主党支持者の底上げに結びつかず、110万票に止まる結果となったのではないか。極めて激戦であったことから、本来は他党の票を切り崩すべきところが、内向きの戦いとなってしまったことは否めない。

あわせて、みんなの党に41.6万票も取られてしまったことは油断以外の何ものでもない。内閣支持率がV字回復したのと反比例し、みんなの党の支持率は減速した。その結果、公示前は意識をしていたはずのみんなの党をノーマーク状態にしてしまい、漠然とした期待感の中、無党派層の多くの支持をみんなの党が獲得したことも、民主党が110万票に止まった理由の一つと言える。

今回の選挙にかかわった一人として反省すべき点は他にもあるが、組織としての選挙総括で示していきたい。民主党県連には今回の選挙について、しっかりと総括をお願いしたい。何よりも今後の選挙にとって意義のある総括としてほしい。そのことが、敗者の無念さと勝者でありながらもスッキリとしない今回の選挙に終止符を打つこととなるであろう。

最後に、昼夜を問わず参院選に取り組んでいただいた組合役員の皆さんと連合が推薦した候補にご支援をいただいた皆さんに感謝を申し上げます。